

事故の予防を念入りに・・・たばこ、電池、化粧品等、指先でつまむことができ、なんでも探索します。また、何でも手や口で調べる意欲、好奇心のいっぱいある時期です。自分で歯ブラシをもって口にに入れるが、人にはさせようとしないそんな時期もありますが、子どもにとって歯みがきをしてもらうのが気持ちいいほどおかあさんも上手になりましょう。

乳児期から幼児期へ 1歳6か月から1歳11か月

自立心が芽生えるころ、自己主張がさかんになり、プチ反抗期の到来です。子どもの体験をことばにしてあげましょう。こころの発達には、ことばがけがたいせつになります。ことばのサポートをしてあげましょう。そのとき味わった感覚、感情をことばで聞くことで吸収していきます。

「リンゴ、真っ赤だね。おいしいね。」「ボール、コロコロだね。」「ワンワン、かわいいね。」、歯みがきのときには「シャカシャカ、ピカピカになったね。」「きれいになったかな。ばい菌マン、いなくなったかな」。保護者も子どもとともに、生活からの体験をことばで表現し、子どもとの共感を味わいましょう。



かまない、かめない・・・保護者が気になることとして「あまりかんで食べていない」という相談が多くなります。歯の数がそろっていかればかめるというものではありません。食べることも学習してじょうずになっていきます。味の変化・においの変化にも敏感です。口の中の大きさにあった一口量、舌の動きとも関係しています。また、食べる機能の発達はことばとも関係しています。食べることにしても、子どもはおとなを小型にしたものではないのです。「ムシャムシャ」、「ゴクン」などことばと見まねで食べること、飲み込むことを学習していけるようにゆっくりしてサポートしてあげましょう。

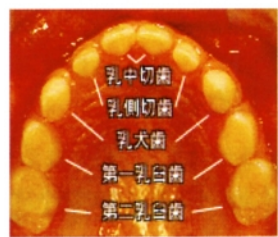
子どもは手を口に入れる機会が多いものです。外から帰ったら、うがい、手洗いをこころがけましょう。うがいと手洗いは、病気の予防の基本。ところで、予防接種は受けましたか。

おかあさんの顔、おとうさんの顔を子どもは感じ取ります。ワクワク子育て、一度の子育てを楽しむゆとりをもちましょう。

● 乳幼児期の歯の生え方 ● 乳歯の萌出順序

	上 顎	下 顎
乳中切歯	8～11ヶ月	6～8ヶ月
乳側切歯	10～11ヶ月	11～13ヶ月
乳 犬 歯	1歳8ヶ月	1歳8ヶ月
第一乳臼	1歳6ヶ月	1歳7ヶ月
第二乳臼	2歳	2歳

乳歯は、6か月ころに下の前歯から生えはじめますが、これは目安です。遅い場合は10か月、12か月ころに生える場合もあります。遅くても心配はいりません。



上下20本で完成
歯と歯の間にすき間がある
歯ならびが理想